

認知症高齢者のグループホームに関する研究 その10

日大生産工 (院) ○石井 健太
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本研究は、既報^{I~V})に関連する一連の研究に位置づけられ、前稿^{IV})では、千葉県における認知症高齢者のグループホーム(以下GH)を対象として、GH責任者は、GH居住者と周辺居住者間での活動や交流の機会を求めていること。その一方で、周辺環境評価から特定の活動(コミュニティ活動等)を行う受け皿となる場の必要性が顕在していること等を報告した。本稿では、千葉県千葉市のGHを対象とし、立地特性・周辺環境の評価(現況)及び周辺環境として必要と考える施設(要望)の関係性に視座を置き、持続可能なGHの周辺環境特性等に関する基礎的知見を得ることとする。

2. 調査概要

本稿では、GHの責任者を対象としたアンケート調査及び立地特性に関する調査の比較を通して、千葉市に立地するGHの周辺環境に対する評価(現況)と周辺環境として必要と考える施設(要望)の关系的側面から考察する。

2-1. アンケート調査(表1・2)

千葉県より指定認知症対応型共同生活介護の認証を受けた千葉市に立地するGH92事例を対象として、GH責任者にアンケート調査を実施した。

立地特性・周辺環境に対する評価(現況)については、5段階評価法(「満足」5点、「やや満足」4点、「普通」3点、「やや不満」2点、「不満」1点)にて考察を行う。

表1 アンケート調査概要

認知症高齢者のグループホーム(責任者)		
総施設数(配布数)	回収数	回収率
92	58	63%

表2 アンケート周辺環境調査内容

立地特性・周辺環境に対する評価(現況)	
集会施設	ボランティア施設、共用スペース、自治会等の地域活動
販売施設・店舗	買い物・銀行等の日常生活の便
病院	病院等のある場所、病院での対応
学校施設	学校等の教育施設
レクリエーション施設	緑・公園
必要と考える施設(要望)	
集会施設	公民館、様々な人々と交流できる場所、高齢者が集まれる場所
販売施設・店舗	スーパーマーケット、商店街、コンビニ
病院	医療機関
学校施設	幼稚園・学校
レクリエーション施設	公園

2-2. 周辺環境調査(表3)

GISを用いて、GHを中心とし半径500m圏内に立地する各施設の、施設数・平均施設間距離・施設密度について整理した。平均施設間距離はGHと各施設間の距離について、施設分類ごとに算定している。

表3 施設分類

周辺環境調査	
集会施設	市民会館、集会所、公民館、コミュニティセンター、児童館等
販売施設・店舗	商店・店舗、商店街、スーパーマーケット、ショッピングセンター、コンビニ等
病院	病院、診療所、医院等
学校施設	幼稚園、小学校、中学校、高等学校等
レクリエーション施設	児童公園、近隣公園、地区公園、運動公園等

2-3. 調査対象GHの概要(図1)

千葉市の人口は(総合政策局総合政策部統計課、平成27年2月)約97万人であり、人口は年々増加傾向であると共に、千葉県は全国で2番目の人口の伸び率となっている。高齢者人口は約22万人(高齢化率:約23%)で1人暮らしの高齢世帯は約30万世帯、認知症高齢者は約12万人(約12%)となっている。尚、調査対象GHの概要(千葉市に立地するGH58事例の階層・ユニット数・居住者数)を図1に示す。

Study on Group Homes for Elderly People with Dementia(Part10)

Kenta ISHII and Koki KITANO



	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	千葉市
事例	11	22	6	10	8	1	58
階層	1.8	1.8	1.5	1.7	1.6	1.0	1.6
ユニット	1.9	1.9	2.5	1.8	1.9	2.0	2.0
合計人数(人)	14.1	14.1	17.7	15.5	16.3	17.0	15.8
男(人)	2.6	3.7	3.0	5.0	4.6	6.0	4.1
女(人)	11.6	10.5	14.7	10.5	11.7	11.0	11.7

図1 調査対象GHの概要

施設数/km²で最も高くばらつきがみられる。他の4施設分類に比較して、「販売施設・店舗」は、平均施設間距離は短く、施設密度は高い傾向がみられた。

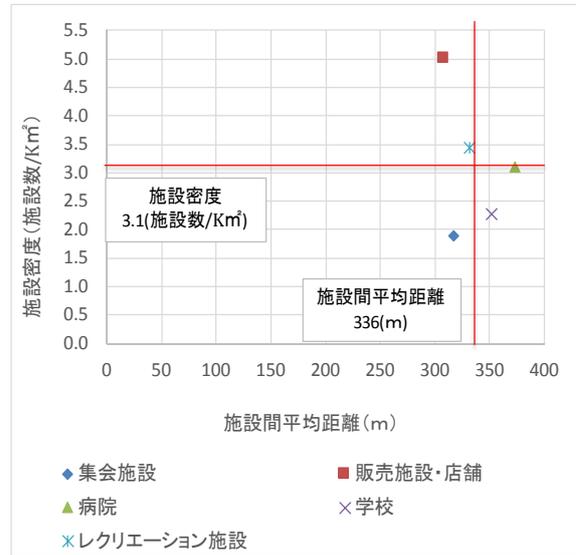


図2 平均施設間距離と施設密度

3. 周辺環境特性

3-1. 平均施設数 (表3)

平均施設数において、「販売施設・店舗」は約3.7、「病院」「レクリエーション施設」は約2.5、「集会施設」「学校施設」は約1.5となっている。

表3 平均施設数

施設分類	施設内容	平均施設数
集会施設	自治会館	0.48
	集会所	0.69
	公民館	0.22
	コミュニティセンター	0.07
販売施設・店舗	商店・店舗	2.19
	スーパーマーケット	0.36
	コンビニ	1.05
	ショッピングセンター	0.19
病院	病院	0.16
	診療所	1.26
	医院	0.74
学校施設	幼稚園	0.62
	小学校	0.60
	中学校	0.38
	高等学校	0.17
レクリエーション施設	公園	2.52
	運動公園	0.19

3-2. 平均施設間距離と施設密度 (図2)

全ての施設における平均施設間距離は336m、施設密度は3.1施設数/km²となっている。

平均施設間距離において施設分類毎のばらつきは小さく、平均300m~400mの範囲に立地している。

施設密度において、「集会施設」は1.9施設数/km²で最も低く、「販売施設・店舗」は5.0

4. 立地特性・周辺環境に対する評価 (現況)

4-1. 平均施設間距離と立地特性・周辺環境に対する評価 (現況) (図3)

立地特性・周辺環境に対する評価 (現況) において、「集会施設」「販売施設・店舗」「病院」は、約3.0、「学校」「レクリエーション施設」は約3.5程度となり立地特性・周辺環境における評価は低くない傾向がみられる。平均施設間距離と立地特性・周辺環境の評価の関係性において、施設分類毎に類似傾向がみられる。

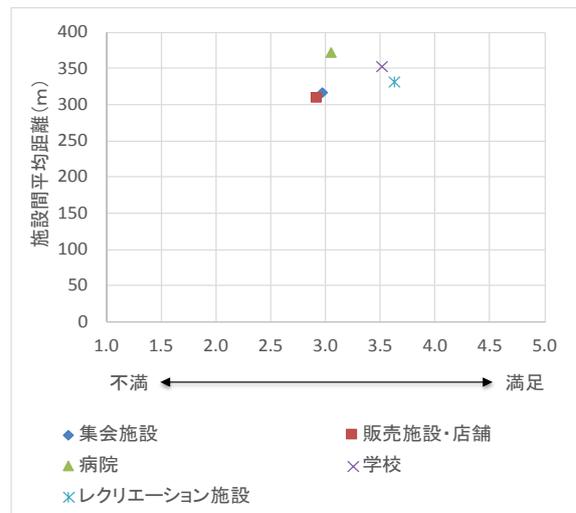


図3 平均施設間距離と立地特性・周辺環境に対する評価 (現況)

4-2. 施設密度と立地特性・周辺環境に対する評価

(現況) (図4)

立地特性・周辺環境に対する評価（現況）において「集会施設」「病院」は約3.0、「学校」「レクリエーション施設」は約3.5であり、施設密度は1.5～3.5施設数/km²となっている。

「販売施設・店舗」は周辺環境に対する評価（現況）は約3.0、施設密度は5.0施設数/km²となっており、施設分類毎に異なる傾向がみられる。

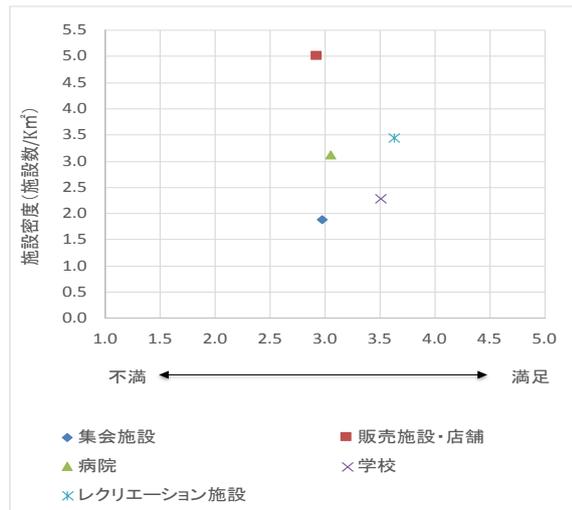


図4 施設密度と立地特性・周辺環境に対する評価（現況）

5. 立地特性と周辺環境として必要と考える施設（要望）

立地特性と周辺環境として必要と考える施設（要望）の比較を通じて、施設間平均距離、施設密度の傾向的特性を整理する。

5-1. 平均施設間距離と周辺環境として必要と考える施設（要望）(図5)

周辺に必要と考える施設（要望）に関して、「病院」46.6%、「レクリエーション施設」46.6%が高い傾向を示し、「学校」29.3%が最も低い割合を示しているものの、全ての施設分類においては30.0%～50.0%の要望が顕在している。

また、平均施設間距離においても、300m～400の範囲の立地を意識している。平均施設間距離及び周辺環境として必要と考える施設（要望）において、施設分類毎の差異はみられず、平均して約330m程度の範囲の立地に対して約40%を超える要望がみられる。

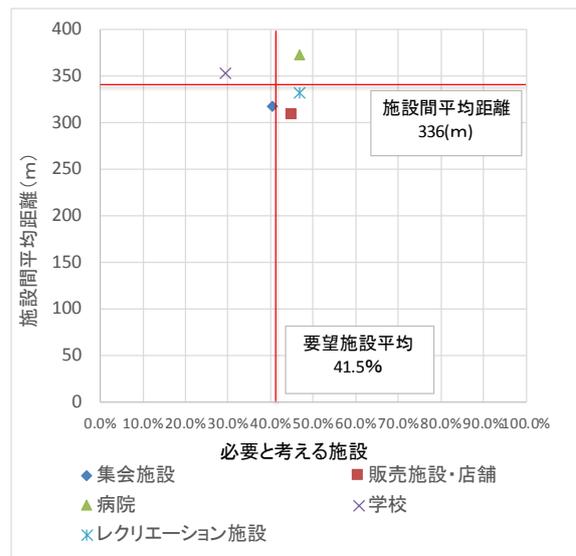


図5 平均施設間距離（要望）

5-2. 施設密度と周辺環境として必要と考える施設（要望）(図6)

「集会施設」「病院」は周辺環境として必要と考える施設（要望）が約30.0～40.0%、施設密度は約1.5～2.5施設数/km²であり、他の施設と比較して、周辺環境として必要と考える施設（要望）と施設密度共に低い傾向がみられた。一方で、「病院」「レクリエーション施設」は周辺環境として必要と考える施設（要望）が約40.0～50.0%、施設密度は約3.0～3.5施設数/km²であり、「販売施設・店舗」は周辺環境として必要と考える施設（要望）が約44.8%、施設密度は約5.0施設数/km²であることから「集会施設」「病院」と比較して、周辺環境として必要と考える施設（要望）、施設密度共に高い傾向がみられた。

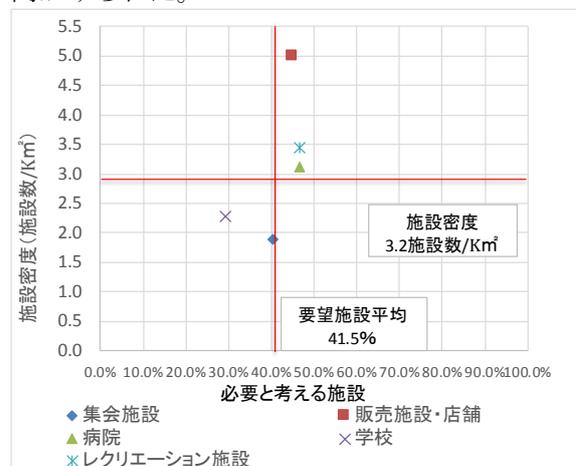


図6 施設密度と周辺環境として必要と考える施設（要望）

6. まとめ

本稿では、千葉市に立地するGHを対象として、立地特性・周辺環境の評価（現況）及び周辺環境として必要と考える施設（要望）の比較を通して以下の基礎的知見を得た。

1) 立地特性から、調査対象としたGHの周辺に立地する平均施設数は、「販売施設・店舗」は約3.5、「集会施設」「学校施設」は約1.5となっている。

また、平均施設間距離と施設密度の関係から、「病院」「学校」は平均施設間距離が長く、施設密度は低い傾向がみられた。

「販売施設・店舗」「レクリエーション施設」は、平均施設間距離が短く、施設密度は高い傾向がみられたと共に、「集会施設」は平均施設間距離が長く、施設密度は短い傾向がみられ、調査対象としたGHの周辺環境として、全ての施設において、平均施設間距離が約300m～400m、施設密度が約1.5～5.0施設数/km²の周辺環境を有する地域にGHは立地していると考えられる。

2) 平均施設間距離と立地特性・周辺環境に対する評価（現況）の関係から、全ての施設において、平均施設間距離が約300～400mに立地している場合、立地特性・周辺環境に対する評価（現況）において、低い評価（不満）を意識していない傾向が明らかになった。一方で、周辺環境として必要と考える施設（要望）においては、全ての施設において、約30.0%～50.0%が周辺環境において必要性を意識していることから、GH責任者は現況にあまり不満は感じていないものの、持続的なGHの運営において各種施設の必要性を意識していると言えよう。

3) 施設密度と立地特性・周辺環境の評価（現況）の関係から、全ての施設において、施設密度が約1.5～5.0施設数/km²に立地している場合、立地特性・周辺環境の評価（現況）に関して、あまり不満を意識していない傾向がみられた。その一方で、「学校」や「集会施設」と比較して高齢者の日常生活と密度に関係する「販売施設・店舗」、「レクリエーション施設」、「病院」の周辺環境としての立地要望は高くなっていると言えよう。

4) 「販売施設・店舗」は、他の4施設分類と比較して施設密度が最も高くなっている周辺環境を有している。一方で、立地特性・周辺環

境の評価（現況）や周辺環境として必要と考える施設（要望）は他の施設分類と同程度であることから、GHの周辺環境において、施設数（内容）の増加と共に施設密度が高くなる周辺環境が望まれると考えられる。

7. 今後の課題

本稿では、千葉市におけるGHを対象とし、立地特性・周辺環境の評価（現況）及び周辺環境に必要と考える施設（要望）の比較を通じて、「集会施設」「販売施設・店舗」「病院」「学校施設」「レクリエーション施設」の施設について整理した。今後は、より詳細な施設分類別の比較を行い、持続可能なGHを運営していく上で、望ましい周辺環境の傾向的特性を明らかにすると同時に本研究で実施したアンケート調査結果と千葉市における外部評価の比較を通じて、認知症高齢者の生活と周辺環境の関係性について更に検討を深めたい。

参考文献

- 1) 鳩山邦夫、山井和則著：グループホーム入門、リヨン社、1999
- 2) 厚生労働省：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）pp.1-9、2015.4
- 3) 痴呆老人百科：中央法規出版、1993
- 4) 総合政策局総合政策部統計課：平成26年版千葉市の人口動向、2014.2

本論文に関連する既発表論文

- I) 染谷佐登子、川岸梅和、梅木千恵子：痴呆症高齢者のグループホームと周辺環境の関係性に関する研究—千葉県内のグループホームにおけるケーススタディー、日本建築学会計画系論文集 第580号、pp.141-147、2004.6
- II) 山根恭介、川岸梅和、小泉真規：認知症高齢者のグループホームにおけるLDK空間の構成に関する研究—千葉県内のグループホームにおけるケーススタディー その2、日本建築学会計画系論文集 第617号、pp.87-93、2007.7
- III) 石井健太、川岸梅和：認知症高齢者のグループホームに関する研究（その11）日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、pp.57-58、2015.9
- IV) 石井健太、川岸梅和：認知症高齢者のグループホームに関する研究—千葉県のグループホームを対象として—日本大学生産工学部第48回学術講演概要、2015.12.5
- V) 石井健太、北野幸樹：認知症高齢者のグループホームに関する研究（その12）、日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、pp.327-328、2016.8